生駒北小中学校だより

令和８年１１月号　　文責　校長　奥中　淳

９月の大変暑い日や大雨の続く日が終わり、10 月は大変過ごしやすい秋らしい毎日となりました。小学生は修学旅行や社会見学、中学生は文化発表会やビブリオバトル大会、そして小中合同の運動会等の行事等を通して、みんないきいきと大切な時間を過ごし成長してくれたと思います。11 月も、引き続き子どもたちにとっての「実りの秋」となるよう、支援してまいります。

小中合同運動会を終えて



10月3日（土）、さわやかな秋晴れの下、令和8年度　小中合同運動会を行いました。「ダイヤのようにかがやき　あきらめず全力突破!!」をスローガンに、小学1年生から中学3年生まで、みんないきいきと活動してくれました。

「徒競走」や「リレー」では、一人ひとりがあきらめずに走りぬくことを、「玉入れ」や「横綱引き」「物取り合戦」「大縄跳び」の団体競技では、気持ちと力を合わせることを大切に、最後までやり抜いてくれました。また表現活動では、それぞれの学年に応じて自分たちで考えた要素が含まれ、気持ちのこもったものとなり、感動を呼びました。特に中学3年生が自分たちで取り組んだマオリ族の民族舞踊「ハカ」は、仲間と共に困難に打ち勝とうとする気持ちまでも十分に表現された見事なものとなりました。

保護者の皆さま、ご家庭の皆さま、暖かい声援で支えていただき、誠にありがとうございました。

修学旅行　広島　（小学校　６年）



10月15･16日（木･金）で、小学校 6 年生の児童が、修学旅行に広島へ行きました。1 日目は、広島平和記念公園にて平和学習を中心に行いました。練習を積み重ねてきた成果もあり、一人ひとりが気持ちを込めてセレモニーを行うことができました。また、資料館などをまわる中で、「戦争や原爆による被害を起こさないために、亡くなった人を大切に思い、平和の大切さを世界中の人に伝えること」を貴重な学びとして得ることができました。2 日目は、厳島神社や宮島水族館、宮島商店街での自由時間を過ごし、それぞれの大切な思い出ができたようです。

学んだことを大切に、これからに活かしていきましょう。

先進校を視察して　（小･中職員）

10月5日（月）の運動会の振替休日の日に「名古屋市立鳴海小学校」「名古屋市立山吹小学校」、19日（月）に「川西市立川西中学校」、26日（月）の創立の意義を考える日に「妙高市立新井南小学校」、「京都市立桂小学校」へ、生駒市教育委員会より視察に参加させていただきました。校内での情報交換や報告会から、一部を掲載させていただきます。

鳴海小学校は、令和3年度より3年計画で、「主体的に学び続ける子」を主題に掲げ、全ての子どもに対して一人一人の進度や能力、関心に応じた個別最適化された学び（自由進度学習）を提供することに取り組んでいる。5年生の授業を参観。

「一人ひとりが学習内容から『自分の時間割』を立てて学ぶだけでなく、分からないところを誰かと一緒に考えたり、集中できる場所を選んだりと自己調整しながら学びを進める姿がありました。学習内容を見つめ、考え、学び合う姿は、とてもいきいきしたもので、また先生との信頼関係もしっかりと築かれていると感じました。」
「『心に響く掲示物』や『何を学んできたのかがわかる掲示物』がたくさんあり、いつでも振り返ることができる環境になっていると感じました。」
「実際に子どもの様子や進め方を参観して、実感できました。」
「もっと困っている児童がいるのかと思っていましたが、何をしないといけないかがわかっている児童が比較的多いと感じました。」

山吹小学校は、2020年度より自由進度学習に取り組み、実績のある学校。オランダ発祥の「イエナプラン教育」の考え方も参考にしながら教育改革を進めている。YST（山吹セレクトタイム）という学習では、子ども自身が学習計画を立て、「いつ、何を、どのように学ぶか」を選択しながら学習を進め、教師は伴走者として支援する形をとっている。6年生と３年生のクラスを参観後、放課後に山吹小の職員研修に参加。

「先生たちが子どもの発達段階・学年に応じて、子どもたち一人ひとりが『自律した学習者』になるよう、丁寧に関わり取り組んでいると感じました。」
「ノートやワークシートに、先生が丁寧にコメントを残していました。」
「子どもたちが振り返りをして言うことから、新しい課題が見つかるのではないかと思いました。」
「職員の対話が多いことに驚きました。」
「成果を出すためには積み上げが必要で、１クラス、１学年ではなく、全校で取り組まないと成果は出せないと感じました。」
「保護者も協力的で、無理のない範囲でボランティア活動に参加しているようでした。転入希望のための移住者もいて、近隣のマンションは空き部屋の予約待ちだそうです。」

川西中学校は、文部科学省指定の「教育課程柔軟化サキドリ研究校」。１単位時間は50分のまま、各教科等の授業時数を標準より少なく編成し、生み出した時間を新教科「ミライラボ」（探究に特化した教科）と裁量的な時間（職員研修や情報交換の時間）に充てている。

「生徒たちが授業で学んだことを基に自身の興味あることがらをより深められるような調べ学習に取り組んでいた。」
「班同士で討論を行う授業の準備で、生成AIを活用して反論を想定させていた。」
「１年生の国語の授業では、生徒が順番に音読をするという従来と変わらない古文の授業を行っていた。これまでやってきたことをすべて変えなくてもよいと思えた」
「授業の準備や生徒のようすについて、『先生同士で話をする時間が増えた。』と話されていたのが印象的でした。」

新井南小学校は、文部科学省より令和4年度から授業時数特例校に指定されている児童数 50 名の小規模校。小規模特認校制度も受け、児童の約半数は校区外から通学している。「妙高型イエナプラン教育」の先進モデル校として、下学年（1～3 年）と上学年（4～6 年）がそれぞれ一教室に入り、学校生活全般を過ごす。一人ひとりを尊重しながら自律と共生を学ぶイエナプラン教育のよさを取り入れ、「子どもも、保護者も、教職員も、地域も、みんなが幸せな学校づくり」に取り組む。朝の会の「サークル対話」、1時間目の「自由進度学習」、2時間目の「1～3年の合同での図工」「4～6年の合同での総合的な学習の時間」を参観。

「先生が『なぜ？何のために？』など、考えさせることを大切にされ、『～しなさい。』『～しましょう。』といった指示が少ないと感じました。自分でよく考えることや、教室全体の穏やかな空気感を造れている一因かと思います。」

「自由進度学習の時間（国・算）では、児童それぞれが計画表に『いつ、どこまで行うか』の予定を書きこみ、プリントなどの問題に集中して取り組んでいました。計画表は児童の意欲を高めていましたが、単元ごとの計画表の確認と作成は、先生の負担となるのではないかと思います。」

「先生が話し出すと児童は自然と顔を向け、気持ちも姿勢も前を向いていると感じました。」

「授業中も他学年の児童が目に入る環境にあり、お手本となっていました。」

「朝の会の時間では、1～3 年生、4～6 年生がそれぞれ 1 クラスに入って、サークル対話を行っていました。子どもたちは先生の「問いかけ」によく考えていました。また、先生は役割分担し連絡等を行っており、先生の負担も減りそうだと感じました。」

京都市立桂小学校は、文部科学省「教育課程柔軟化サキドリ研究校」。授業の 1 単位時間を 40 分とし、生み出した時間を、学年のユニットごとに話し合う時間や「桂ラーニング」に充てている。桂ラーニングは、週 4 日の午後に 20 分ある時間で、計画を立てたりふり返ったりしながら、自分で学びを調整していく力を育んでいる。

「毎日の時間割を組み替えることで、子どもたちや先生たちも新しいことにチャレンジする時間を作ったり、余裕をもって取り組める時間を作り出したりする工夫を実装されていました。」

「取組みを通して 『みんなの Well-Being』こどもも教職員も地域もともに幸せに学び合える学校 という学校全体としての目指すところが素敵だと感じました。」

それぞれの学校の良いところを、生駒北小中学校ではどのように活かしていくことができるのかを考え、これからの教育活動に反映していければと考えております。

児童・生徒の様子は、こちらから

X は、ログインすると日付順で見ることができます。

○ 生駒北小学生の活動の様子（X）
https://x.com/Ikoma_kita_e

○ 生駒北中学生の活動の様子（X）
https://x.com/ikoma_kita_j